

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説  
(平成26年5月9日)

【二十八】子路 問いて曰く、如何なるをか斯れ之を士と謂うべきと。子曰く、切切偲偲、怡怡如たるを、士と謂うべし。朋友には切切偲偲たり。兄弟には怡怡たりと。

子路が孔子に「どういう人物が士といえるでしょうか」と質問をしました。孔子は、人を誠意をもって励まし、和やかに親しんでいるような人物を士とってよいであろう。友達には強くしっかり励まし、兄弟には和やかな感じで応対するが良い。

【二十九】子曰く、善人 民を教うること七年ならば、亦 以て戎に即かしむべし。

孔子が言うには、人間的に素晴らしい人物が国家の中で人を指導する立場に立ったというのであれば、7年あれば民はなびいて、あの人のいう事なら命を捨てても構わないと戦争に出て行くであろう。そういう風な気持ちがある兵隊ばかり作れば、戦争が起こったときには、立派な力量を持った兵隊は功績を上げることができる。敵に勝つことができる。

【三十】子曰く、教えざる民を以て戦うは、是れ之を棄つと謂う。

教育をまるでしていない国民で、戦争をすることがあれば、その国民を見放すことになると考えれば良いでしょう。

何も軍事教育をしていない人間を、戦場へ送り出したら負けるだけ。そのようなことは、してはいけないということです。

この間、韓国の大型客船が沈没しましたが、その船員の教育費が5万円だったそうです。救命道具を用意せず避難方法を一切教育しないまま、人災が起き、多くの韓国人が亡くなった。教育をせず船員を船に従事させたがために、相当な人が亡くなってしまったという事です。きちんと教えていれば、人を死に至らしめるようなアナウンスは流さなかっただろうと思います。何も教えないで、あんなことをしていたから、人災だなという気がしません。

日本で考えると、国民に何も教えていないから、北朝鮮や韓国・ロシアが今急に攻め込んできたら、棄民になります。やはり民を捨てたということになります。防戦の仕方を教えたら、戦争の準備をするのだからダメだという反対が巻き起こるので、たぶん教えられないまま、戦争に入るのではないかという気がします。

今の日本の内閣総理大臣、または自衛隊のトップと考える場合、アメリカの大統領の場合は、軍を率いるトップになっていますから、そこら辺で考えてみます。

政治家も総理大臣就任時には、けっこう良い顔をしている人は多いけれど、辞める頃になるとだいたい悪相になっています。安倍さん、だんだん悪い顔になってきているから、ちょっと危ないなという気がします。

今度の国民投票で、18歳以上の選挙権年齢を引き下げる法案が成立をするという事は、18歳以上の人間は兵隊に行かせることが出来るという環境を、整え始めたと考えられます。徴兵制は絶対あり得ないと言いますが、色々とそこから考えていくと雪崩れ現象みたいなもので、今回の憲法の解釈を変えていく先は、憲法改正することが視野に入ってきます。

憲法を改正すれば、色々な環境が整ってきます。戦争は永久に放棄するところから、止むを得ず応戦する場合があります。応戦する場合とは、国が攻められた時にはという事ですが、具体的には北朝鮮から弾が飛んできて落ちた。これが原子爆弾だったらどうするのか。今回、弾はそれでも他で相当な人間が死んだ場合や、また次来る可能性がある。そうしたら応戦をするかもしれないという話になってきたら、安倍さんは「ノー」とは、たぶん言わないでしょう。国民も自分の親兄弟が軒並み殺されたら、やはり反撃をするという事になるであろうという気がします。

ここに力量がある素晴らしい人物が七年間総理大臣になり環境を整えれば、戦争が始まりそうだという状況になれば、徴兵制は復活するであろうと私は読みました。